

赤羽駅東口地区 まちづくりニュース

平成26年7月

発行：赤羽駅東口地区まちづくり全体協議会
問合せ先：北区まちづくり部まちづくり推進課



※画像はすべて権利者の許可を得て掲載しています。

赤羽駅東口地区まちづくり全体協議会 平成25年度総会が開催されました！

赤羽駅東口地区まちづくり全体協議会は、地域内に居住する住民および自治会、商店街、PTA関係者と北区が、地域に愛着を持ち、住み続けられるまちづくりを円滑に推進させることを目的として、平成21年度に発足いたしました。



平成25年度の総会は、任期満了に伴う役員の変更および、これまでの地域活動の状況や区の動きについて情報共有するため、平成26年3月19日(水)、赤羽文化センター第1視聴覚室において開催されました。

総会では、赤羽の住民をはじめ、商店街関係者、区議会議員など、約40名が参加し、今後の赤羽について活発な意見交換が行われました。

●会則の変更

赤羽駅前を中心に赤羽全体でまちづくりを考えたいとのまちの意向に沿って、赤羽のまちづくりや課題等について協議するための機関として『まちづくり懇談会』を新設し、それに伴う細目等を変更することが承認されました。

●役員改選

任期満了に伴い新役員の提案がなされ、以下の方が新役員になることが承認されました。

◆平成26年度 赤羽駅東口地区まちづくり全体協議会 役員一覧

全体協議会	顧問	： 沼野 泰郎	(赤羽自治会会長・赤羽本町通り商店街会長)
	会長	： 尾花 秀雄	(赤羽中央街商店街振興組合理事長)
	副会長	： 小出 俊雄	(赤羽一番街商店街振興組合理事長)
	副会長	： 金子 勝男	(赤羽南自治会会長)
	副会長	： 森岡 謙二	(赤羽スズラン通り商店街振興組合理事長)
	副会長	： 高橋 弘	(赤羽東口駅前通り商店街振興組合理事長)
東本通り 東ブロック部会	部会長	： 森岡 謙二	
	幹事	： 秋廣 教雄	(赤羽スズラン通り商店街振興組合理事長)
	〃	： 酒井 克昌	(赤羽岩淵中学校PTA会長)
	〃	： 若旅 孝雄	(赤羽二丁目自治会副会長)
駅前通り 南北ブロック部会	部会長	： 高橋 弘	
	幹事	： 石井 雅之	(赤羽小学校PTA会長)
	〃	： 久保田 政子	(赤羽東口駅前商店会会長)
	〃	： 関野山 洋治	(京浜通り商店街会長)
	〃	： 福田 博行	(赤羽一番街商店街振興組)
〃	： 藤中 貢	(赤羽OK横丁グルメ会会長)	

※敬称略

※掲載役員は、自治会・商店街等の役員改選により、替わる場合があります(役員の役職名は平成26年5月24日現在)。

※まちづくり協議会総会で赤羽南自治会会長の村田光明氏が再選され幹事に就任しましたが、4月の赤羽南自治会総会において金子勝男氏が会長に選出され会長が替わりましたので、改めて金子氏にまちづくり協議会の幹事をお願いしました。

まちづくり講演会 人口減少時代における、中心市街地のまちづくり【西郷氏】

赤羽駅東口地区まちづくり全体協議会総会の中で、(株)まちづくりカンパニー・シーブネットワーク代表の西郷真理子氏をお招きし、『人口減少時代における、中心市街地のまちづくり』をテーマに講演いただきました。

西郷真理子氏略歴：都市計画家/一級建築士 住民主体のまちづくりを支援する専門家。コミュニティーをテーマに『既成市街地の再生』のまちづくりの研究と実践・建築、コンサルタント活動をする。主な活動として、高松丸亀町商店街再生開発事業（ABC街区）の立案・設計、現在は復興まちづくりとして石巻などの支援をしている。建築に関する受賞やTV出演など、活躍は多岐にわたる。



●『人口減少時代における、中心市街地のまちづくり』講演概要

私は、歴史あるまちに住んでいらっしゃる方々が自分たちのまちに大変誇りを持っておられることを実感し、そういう人たちのまちづくりを応援する専門家になろうと思い立ち、“川越”、“長浜”、“高松”などのまちづくりに取り組んでまいりました。歴史あるまちの中心部に『住み、働き、学び、集う』などいろいろな要素を集約することは、人口減少で市街地が縮小する状況のもと、持続可能なまちづくりを可能にする有力な手段です。赤羽駅東口地区のまちづくりの参考にさせていただければと思い、これらの事例をご紹介します。

【川越市一番街商店街】

川越一番街は、戦後すぐに都市計画道路が決定されまして、道路が拡幅されることになっていました。まちでは、道路を拡幅してビルを建てようという人と、歴史あるまちを大切にすべきという人で、意見が2つに分かれていましたが、実際にマンションが建ったのを目の当たりしてようやく、「これではいけない、歴史あるものを大切にすまちづくりをしよう」という方向に意見がまとまり、『川越蔵の会』という組織ができました。今でいうNPO団体で、商店街の人、文化財保存をしている人、市役所の人、市民など、いろいろな人たちが参加しました。この組織では、まちづくりのルールである『まちづくり規範』を定め、それを街並み委員会が運営していくことが決まりました。『まちづくり規範』の中に、“4間、4間、4間のルール”というのがあります。通りから4間行ったところまでがお店で、4間行ったところから住まいがあって、8間から12間の間に中庭があるというのが川越の街並みの土地利用の方法でした。そこで、8間から12間の中庭のあるところには建物を建てないということを皆さんと確認し、新しく建てる方もここには建物を建てないということをルールにしました。さらに、『まちづくり会社』を作っていこうということが決まりました。市民がディベロッパー（開発業者）となる開発の仕組みづくりですね。

商店街は400mくらいありますが、1年に3軒から5軒くらいお店を改修し、3年も経つと見違えるように街並みが整い、にぎわいが戻ってきました。今日のにぎわいは皆さんもご存知のとおりです。もう30年になりますが、今でも月1回、蔵の会をはじめとして商店街の人など、いろいろな人たちが集まり、街並み委員会というものを開催しています。



写真：(株)まちづくりカンパニー・シーブネットワーク提供

【長浜市のまちづくり】

長浜のまちのシンボルになっていた黒壁銀行という建物が教会に転用されていましたが、使い勝手が悪いので壊して駐車場にするという話になり、歴史ある建物を保存しようと、運動が始まりました。沢山の署名を集め、市に相談したところ、「皆さんで利用したらどうでしょうか。市は全面的に応援します」という話になり、地元の人たちが9千万円集め、長浜市が4千5百万円出資して、『まちづくり会社』（第三セクター）を設立し、古い建物を活用して“黒壁スクエア”を造りました。1階はベネチアで買い付けた比較的買いやすい価格帯のガラス製品、2階は高額商品の売場とし、ガラス作りの作業を見物できる工房やカフェも作りました。

この施設が人気を呼び、開発前はほとんど人通りがなかったまちが、今日では年間200万人も訪れるまちに生まれ変わりました。この成功を背景に、長浜にはこのような『まちづくり会社』が多数誕生しました。例えば、プラチナプラザという施設では、観光客ではなく住んでいる人達のために、生鮮産品や惣菜など生活に必要なものを提供しています。

【高松市丸亀町商店街】

丸亀町商店街は、昔、“札の辻”といい、ここから街道が伸びていくメインストリートでした。戦災に遭って全焼し戦後再建されましたが、終戦直後に建てた建物が老朽化し、商店街も衰退傾向にあったため、共同建て替えしようということになりました。『まちづくり会社』が、市街地再開発事業によって整備することとなり、ヨーロッパの街並みのような雰囲気になろう、ミラノのガレリアのような街になろうということによって商店街のみなさんの合意が整い、都市計画道路の交差部に広場をつくり、美しい街並みを作っていました。

土地の所有はそのままにし、広く定期借地権を設定し、適切な建物を適切な大きさに作っていくことで回遊性を高め、丸亀町全体がにぎわうように工夫しました。さらに、特産のオリーブハマチや地場の野菜を使い、農業や漁業と連携するレストランを作り、地場産業である漆や盆栽を扱う店を作り、商店街が地場産業のショーケースとなりました。

【赤羽駅東口地区への提案】

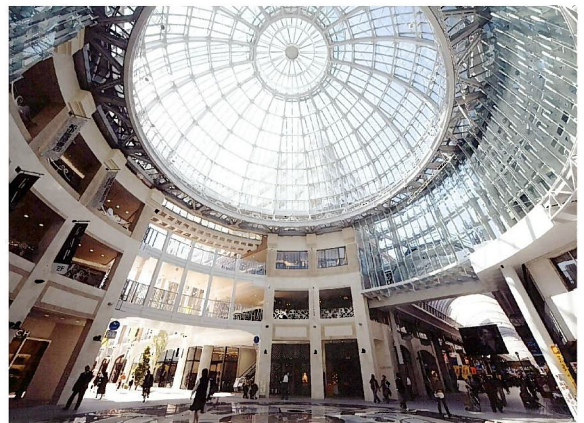
アメリカでの成功例としてサンタモニカのサードストリートという商店街があります。一般の商店街との違いは“デザインルールを作り土地利用をマネジメント”していることで、これを参考に、“ライフスタイルセンター”という、商店街スタイルのショッピングセンターを作り始めており、赤羽のまちづくりにとっても参考になると思います。

イベントの開催、子育て中のお母さんの応援、高齢者の人たちの暮らしを助ける活動、まちづくりに寄与するこだわりの施設作りなど、できることから一歩ずつ成功体験を積み重ねることで成長し、大きなプロジェクトに取り組むことができるようになります。

まちづくりにおいて、みんなの合意を取り付けるのは大変難しいですが、例えば、ミラノのガレリアみたいになりたいなど、“まちの空間のイメージを共有化”していくことが有力な手段となります。自分が気に入ったまちの写真を持ってきてくださいと言うのも良い方法です。住民自らが開発者になるという意気込みで、まちづくりを進めていってください。



写真：黒壁ホームページより（画像掲載許諾済）



写真：(株)まちづくりカンパニー・シーブネットワーク提供

赤羽駅東口地区まちづくり全体協議会の活動状況

平成25年度の赤羽駅東口地区まちづくり全体協議会の活動として、まず6月に南北ブロック部会が開催されました。そして、これからの赤羽駅東口地区のまちづくりのために、地区内の住民と商店街が一体となって取り組んでいこうという方針のもと、8月と11月に合同ブロック部会が開催されました。



合同ブロック部会の様子



JR赤羽駅東口駅前広場

●自転車駐車場整備について

北区から、放置自転車対策として、次のような報告がありました。

- 自転車駐車場の確保、自転車駐車場への自転車の誘導、放置自転車撤去の強化の三本柱で放置自転車対策に取り組む。
- 赤羽駅東口の地下式自転車駐車場について、工事に伴う周辺への影響等、総合的に検討中だが、実現には時間を要するので、小規模なものでも自転車駐車場のための適地を今年度中に確保したい。
- 赤羽駅南口にコイン式自転車駐車場51台の設置を考えている。(※平成26年4月から運用中)

これに対し、参加者からは、駅から遠い場所に設置しても利用されない。JR用地に自転車の駐車に利用可能な場所があるので、JRと交渉すべきだ。赤羽区民事務所前の歩道が広いので、ここを利用すべきだ。などの提案がありました。

●まちの拠点施設の創出について

ブロック部会に関するこれまでの検討経過報告の中で、協議会が自主的に検討を進めてきた、赤羽小学校を核としたまちづくりについて、両ブロック部会長から、『(仮称)赤羽小学校有効活用計画』について提案がありました。小学校の機能を中心に据え、同時に文化の発信地とし、防災拠点の機能や福祉施設も加え、まちの拠点施設にしようという提案です。この提案に基づいて様々な意見が交わされ、今後も協議会で自主的に検討を進めていくことになりました。

●赤羽駅東口地区の今後の課題について

東口駅前広場の再整備や、南口駅前のタクシー乗り場移設、まちに花の木を植える、エイトライナーやメトロセブンなど新交通システム、区役所の新庁舎の誘致など、赤羽全体の構想を踏まえて、その中で検討し取り組んでいくという意見がありました。

●地域自らの取り組みについて

「赤羽のまちづくりを推進するという自覚を持って、自分たちで率先して集まって何か起こしていかなければならない。この合同ブロック部会を足掛かりにして、前向きにみんな協力してやっていくことが、これからの課題になると思う」との意見が出されました。